

国際ニュースのキモン

アジア 開発銀行の役割とは？

5月4〜7日、アジア開発銀行（ADB）の第40回年次総会が京都市で開かれる。ADBは、アジア・太平洋地域の発展を目的に、日本のインシヤチフによって設立された国際開発金融機関だ。1966年の発足から40年、ADBはどのような役割を果たしてきたのだろうか。ADBに長く勤めた経験を持つ吉田恒昭氏に、ADBと日本、ADBとアジアの発展の関係などについて聞いた。

協力=吉田恒昭・東京大学大学院新領域研究科国際協力学専攻教授
Yoshida Tsuneaki
1946年栃木県出身。78年ロンドン大学卒業。
(株)日本工業(財)国際開発センターを経て、81年からアジア開発銀行勤務。97年より東京大学大学院教授。

Q ADBは日本の強いインシヤチフで設立されたということですが、それは日本にとってどんな意義があったのでしょうか？

A 私はADBを、「戦後の日本人がアジアにとって何者か」ということを、共に汗を流して実行行動で示す場」であったと捉えています。日本が戦前・中にアジアに残した負の遺産を、ADBという国際機関を通じてアジアへの貢献によって、少しずつ正の遺産へと変容させ、アジアの人々の心に信頼される日本の実像をもちたらしめたと思うのです。

A 設立当時、アジア地域のADBは地域の発展にどう貢献してきたのですか？

最大の課題は、飢饉の克服でした。ADBが最初に取り組んだのも、アジア各国の農業に関する調査です。ADBはフィリピン・マニラの国際稲作研究所（IRRI）が開発した高収量品種を途上国に普及するために、灌漑施設・肥料供給・技術移転の3点セットを中心としたプロジェクトを仕立て、「緑の革命」※2を後押ししました。このように、60年代から80年代初頭までは農業を中心に取り組んだといえるでしょう。その結果、ほとんどの国で食料自給を達成しました。

その後、エネルギーや交通など、いわゆる工業化に必要なインフラ整備へと支援はシフトしていきました。ところが振り返ると、国家間において、国内においても、格差が広がってしまいました。それではもう少し社会開発を支援しようというのが、90年代に入ってからの流れですね。そしてミレニアム開発目標が発表された2000年以降は、貧困削減を最重要課題として途上国を支援しています。

Q 近年、アジアは大きな成長を遂げましたが、まだまだ課題はありますか？

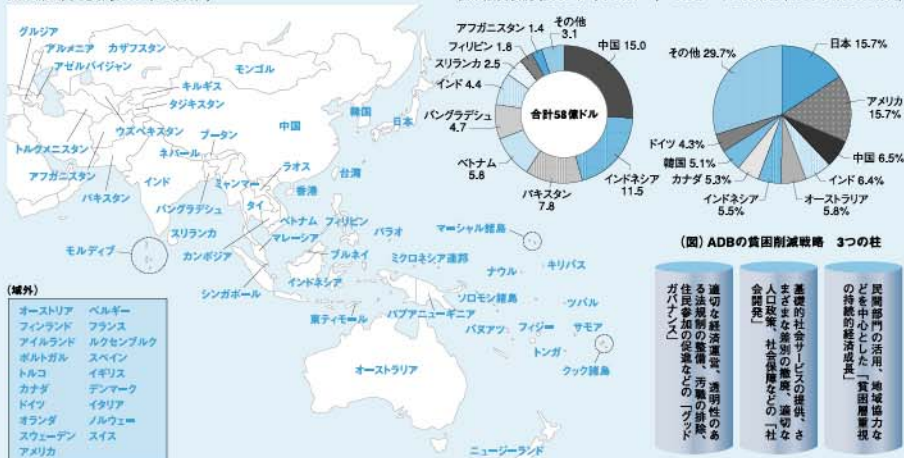
A ADBにとってここ10年の大きな変化の一つは、域内の相互依存関係の発展・深化に伴うさまざまな域内協力の強化です。例えば、低所得国向けに緩和された条件で融資するアジア開発基金に、わずかではありますが拠出する国・地域※3が増えてきたこと

です。アジア地域内より貧しい国のためにこれまで援助を受けていた国々がお金を出す、これは素晴らしいことですね。

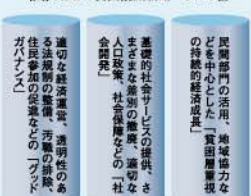
一方、アジアの中の半数の人々が、いまだに1日2ドル以下の貧しい生活を強いられています。ADBは、99年に策定した3つの戦略（図参照）に沿って、とりわけ貧困層に便益が届くように、途上国政府に働きかけを続け、支援しています。

※1 途上国政府に対して財政支援や経済・社会活動に関する専門的な助言を提供し、融資する機関。一般に、世界銀行グループと4つの地域開発銀行（アジア開発銀行、アフリカ開発銀行、米州開発銀行、欧州復興開発銀行）を指す。

ADB加盟国・地域 (2007年2月現在)



(図) ADBの貧困削減戦略 3つの柱



り、開発政策や戦略そのものを共有し始めたことで開始された事業です。ADBがリードするということよりも、関係諸国のオーナーシップを機軸とした形で進められています。

Q 日本の援助とADBとの連携はありますか？

A よい例が、97年のアジア通貨危機です。日本は三國間援助と並行して、ADBを通じて大きく貢献しました。それはADBというアジア諸国共通の場（クラフ）があったからできたことだと思います。そこで皆が一緒に悩み、考え、危機のときは互いに外貨を融通しようというシステム※5をすつくりました。

また、今、JICAではメコン地域の国境を越えたインフラ協力のあり方を探るための研究※6を行っています。研究会ではADBスタッフと話し合いを持ち、情報交換を進めています。互いの得意分野を生かし、足りない部分を補完し合うことで、二国間援助と広域的援助がより効果的に

なると思います。

Q 5月の年次総会では、環境をはじめ、失業の増大、急速な都市化、拡大する貧困の格差など、アジア・太平洋地域の問題に対応する長期戦略を総合的に見直すことが予定されています。また、防災とそのリスクマネジメントのセッションは、日本の経験とJICAのこれまでの取り組みも紹介されます。京都で開催される意義をどう考えますか？

A 京都は、伝統を守りつつ近代化を達成するという途上国共通の課題を乗り越えた場所です。そういった意味で、ADB加盟国が京都に集まる

というのは、彼らにとって学ぶことが多いと思います。また、京都は地球温暖化への対応を志すするが、いままうセシジが発信された地ですから、彼らも京都議定書を理解しようとする、責任を自覚するきっかけになるものも期待しています。

※5 エネルギー・インフラ、交通インフラ対応可能性プロジェクト研究

※6 6 クロムドラー交通インフラ対応可能性プロジェクト研究

Column

アフリカ開発銀行の年次総会は上海で開催

5月16、17日、第42回アフリカ開発銀行（AfDB）年次総会が中国・上海で開催。JICAもオブザーバーとして参加する。テーマは「アフリカとアジア開発のパートナー」。アフリカでは年々、中国やインドなどアジア企業の経済活動が活発化している。また、アフリカからアジアへの輸出高もこの5年で約3倍に伸びており、ヨーロッパ、アメリカに次いで、アジアはアフリカにとって3番目の貿易相手地域となっている。

さらに、今年1月に胡錦濤国家主席がアフリカ8カ国を歴訪するなど、アフリカ諸国との関係を強化する中国の海外直接投資は、2006年、11億8,000万ドルにまで達した。成長を続けるアジアの経験はアフリカで生かせるのか。アジアとアフリカの経済的結びつきは、アフリカの民間セクター振興の促進につながるのか。アフリカでの存在感を増す中国での開拓に注目が集まっている。